

一般質問者一覧表 〔第1回市議会定例会
令和4年3月10日、11日開議〕

質問日	令和4年3月10日（木）		質問方式	分割方式			
質問順位	1	会派名	市民クラブ	議席番号	37	氏名	平間 良明
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
<p>1 政令指定都市中人口10万人当たりの人身交通事故ワーストワン脱出に向けて</p> <p>(1) これまでの重点対策の効果、課題、今後の対応について</p> <p>(2) 2025年までに2500件以下とした目標について</p> <p>(3) 75歳以上のドライバーへのサポカー普及促進について</p>	<p>警察庁がまとめた2021年の交通事故の発生件数は1.2%減の30万5425件。負傷者数は2.1%減の36万1768人であり平成以降で最も低い水準だった。この結果は官民を挙げた様々な取組の成果の表れと受け止めている。交通事故削減に取り組む中、本市の人身事故件数ワーストワン脱出に向けて、以下について3点伺う。</p> <p>(1) 交差点改良など、重点対策を行う箇所として毎年20か所を選定して取り組んでいる。また、事故の多い中央分離帯開口部の閉鎖箇所を選定しているが、これまでの重点対策の効果と課題及び今後の対応について伺う。</p> <p>(2) 現目標でワーストワン脱出が可能か、目標の根拠を伺う。また、他市も事故件数を削減している中、ワーストワン脱出に向けて大胆な対策が必要と考えるが、具体的な取組を伺う。</p> <p>(3) 警察庁は本年5月13日より高齢ドライバー対策の強化として、運転免許更新時に75歳以上で一定の交通違反歴がある場合に「運転技能検査」の義務づけやサポカー限定免許制度を施行する。交通事故件数削減にはサポカー普及が大きく寄与している。そこで、75歳以上のドライバーへのサポカー購入補助の創設など、サポカーの普及促進について伺う。</p>						高須土木部長
<p>2 カーボンニュートラル推進について</p> <p>(1) 再生可能エネルギーの増加目標について</p> <p>(2) 水素や蓄電池などの活用促進について</p>	<p>地域における2050年脱炭素社会の実現に向けて、本市は4月より「カーボンニュートラル推進事業本部」を設置する。カーボンニュートラルの推進は行政や企業のみならず、市民一人一人の意識向上と協力が必要である。そこで、以下3点について伺う。</p> <p>(1) 浜松市域“RE100”では、再生可能エネルギーの増加目標として風力発電を2018年実績5万メガワットアワーから2050年に120万メガワットアワーとしているが、天竜区での風力発電施設計画の中止など課題が多い。市民一人一人の協力により、太陽光発電など増加が見込めるエネルギーの配分を増やすなどの目標設定見直しが必要と考えるがどうか伺う。</p> <p>(2) 発電が不安定な再生可能エネルギーを安定的に利用するには、発電した電気で水素を製造することや、蓄電池やEVに蓄えるなどの需給調整機能が必要である。そこで、これらの活用促進策を伺う。</p>						藤野産業部長 //

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
(3) 家庭ごみの有料化の検討について	<p>(3) 環境省は自治体が新たにごみ焼却施設の整備計画を進める際に、ごみ減量を図る観点から交付金要件として家庭系一般廃棄物処理の有料化の検討を求めている。また、ごみ分別の推進等、有料化以外の施策で1人当たりのごみの排出量等を減量させている場合はこの限りではないとしている。家庭ごみの減量方法として、食品ロスや生ごみの削減、雑紙回収、プラスチックごみの分別回収が挙げられているが、これらは市民の協力が不可欠であり、以下伺う。</p> <p>ア 本市が有料化で見込む1人当たりのごみ排出量について</p> <p>イ 生ごみと紙類の削減に向けた具体的な取組について</p>	藤田環境部長
3 遊休施設の有効活用について	<p>浜松市公共施設等総合管理計画では、公共施設の最大限の有効活用として行政財産全てを公共空間として捉え、コミュニティー活動の充実やにぎわいの創出の場としての活用を図ることや、遊休財産については、情報を公開し、財産活用のニーズを探りつつ、公有財産売却業務委託を継続し、売却を進めるとの記載があるが、タテモノ資産の遊休財産については情報公開されておらず財産活用が十分に図られていない。そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) タテモノ資産の遊休財産公開について伺う。</p> <p>(2) 遊休資産は天竜区や北区などに多く、管理や財産活用を推進するには各市区振興課のマンパワー不足が課題と考えるが対応について伺う。</p>	森本財務部長
<p>4 公園遊具やスポーツ施設整備について</p> <p>(1) 公園の遊具更新について</p> <p>(2) 河川敷等スポーツ施設のトイレについて</p> <p>(3) 四ツ池公園陸上競技場の事前周辺環境整備について</p>	<p>公園の遊具やスポーツ施設整備に期待する様々な市民の声がある。そこで、以下3点について伺う。</p> <p>(1) 老朽化や故障により使用禁止や撤去される遊具が多いことから、遊具の更新費用や修繕費が不十分との声が出ている。遊具の中には宝くじ収益金により整備したものが多くあるが、現在は宝くじ収益金の使途として遊具の更新に充当していない。遊具更新や新たなニーズに対応する遊具設置に向けて新たな取組など考えを伺う。</p> <p>(2) 河川敷等スポーツ施設のトイレについて、市民から不具合が多いと聞いている。また、洋式化やUD化などを求める声があるが対応について伺う。</p> <p>(3) 四ツ池公園の再整備に当たり、現状のイベント開催時の周辺混雑への対応や、将来生じる恐れのある課題を事前に把握し検討するプロジェクトチームを組織して調査研究を進めていると認識している。そこで、アクセス道路となる都市計画道路上島柏原線と上島萩丘線の接続部分の先行整備や、歩道の拡幅・UD対応など、事前</p>	<p>奥井花みどり 担当部長</p> <p>〃</p> <p>山本技術統括 監</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>の周辺環境整備について、プロジェクトチームにおける検討状況について伺う。</p>	
<p>5 二輪車産業政策 バイク・ラブ・フォーラムの取組について</p>	<p>経済産業省がバイクに関わる企業・団体・地方公共団体等と取り組むバイク・ラブ・フォーラム(BLF)は、二輪車の政策課題を整理し、課題解決のための実行施策を取りまとめた「二輪車産業政策ロードマップ」を基に取り組んでおり、本市も実行団体として参加している。本市はバイクのふるさと浜松のイベント実施や駐輪場整備などに取り組んでいるが、これまでの「ロードマップ2020」における本市の取組の成果と、2020の結果も踏まえて、11項目の課題を設定し中長期的な施策を行っていく新たな「ロードマップ2030」における本市の取組について伺う。</p>	<p>藤野産業部長</p>
<p>6 歴史的風致維持 向上計画認定後の 対応について</p> <p>(1) 重点区域のまちづくりの方向性について</p> <p>(2) ポケモンGOの活用について</p>	<p>令和3年度末に認定予定の浜松市歴史的風致維持向上計画は、国の支援を受けて文化財行政とまちづくり行政が連携して、重点区域を中心とした整備ができると期待が高まる。そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) 歴史的風致維持向上計画策定の重点区域の一つである二俣城跡及び、鳥羽山城跡の国史跡を核とする天竜二俣地区において、周辺環境も含めた重点区域のまちづくりの方向性について伺う。</p> <p>(2) 国土交通省は令和3年11月よりポケモンGOを使った歴史的建造物の紹介を神奈川県小田原市で開始した。今後も歴史的風致維持向上計画の認定を受けた全国各地で展開予定である。この取組により市民には計画に位置づけた歴史的建物の周知につながり、観光客の市内回遊効果も期待できるが取り組んではどうか伺う。</p>	<p>井熊都市整備部長</p>